平成２９年８月

地域支援センターだより

NO.1

地域支援センターやわた

「第１回スキルアップ研修会」を実施しました

７月 24 日（月）、大阪医科大学ＬＤセンター　オプトメトリスト　奥村智人氏をお招きして「発達障害の子どもに見られる『見る力』の問題とその指導」という演題でご講演をいただきました。保・幼、小、中、高等学校、特別支援学校の先生、その他関係機関の職員の方等、130 名以上の方々にご参加いただきました。

講義では、「視機能」や「視知覚・視覚認知」の役割と、それらの問題が学習や運動にどのように影響を与えるかについて、解説していただきました。「見る力」というと、「視力」が最初に思い浮かびますが、つまずきの背景にある視力以外の「見る力」（眼球運動、空間知覚や形態知覚、目と手の協応等）を見極めることが、子どもたちを支援していく上で重要であることをお話ししていただきました。追視や輻輳（ふくそう）眼球運動（寄り目）等、身近にできるアセスメントの方法についても、実技を交えながら教えていただきました。具体的な支援方法として、日常に取り入れられる「ビジョントレーニング」や「合理的配慮」の例についての紹介もあり、子どもたちを見る新たな視点や、支援の在り方について学びを深める機会となりました。

参加者の感想（一部抜粋）

- 目からウロコのお話がいっぱいありました。
- 見る力がこんなにも子どもたちの学習に影響しているのだと初めて知り、驚きました。
- 支援の在り方を根本から見つめ直すことができました。
- ワークシートの例など通常学級でもたくさん使えるものを知ることができたのが良かったです。
- 「視覚」という視点から、学習の困難さ考えたことがなかったので、一人一人の特性をよく観察して必要な支援やトレーニングをしていきたいと思います。
- 身近なもので遊びながら訓練・経験をすることが大切なのだと思いました。年齢や特性を考えて支援することを心がけたいと思います。
- 合理的配慮を考える時に大切なこととして、学習の本質（本来の目標）を考えることが大切だとわかりました。「本質を変えずに方法を変える」という視点は、新しい指針になります。

★「第２回スキルアップ研修会」について★

12 月 20 日（水）14：30～（受付は 14：00～）
立命館大学産業社会学部・同大学院応用人間科学研究科　教授　宮口幸治先生をお招きして、『学習に必要な認知機能とは～認知機能トレーニングに学ぶ～』という演題でご講演を頂く予定です。